

1 研究主題

「学ぶ楽しさ」を実感できる生徒の育成（2年次）
- 学び合いの活動を取り入れた授業の工夫を通して -

2 主題設定の理由とねらい

「学ぶ楽しさ」とは

- (1)基礎的・基本的な学習内容がわかる
- (2)課題に対する自分なりの考えを持つことができ、それを表現し認められる
- (3)他者との意見や考えの交流をする中で、新しい発見があり、自身を高められる

であるとする。また、

「学び合いの活動」とは、**（基本的な考え方）**

＊課題に対する個人の意見や考えも持つ。また、それを表現する。



＊互いの意見や考えを交換し合い・教え合う中で、自身の考えを深められる(わからなかったことへの解決の糸口がつかめる。または、解決できる)。



＊課題に対する自身の考えや意見をさらに深め、自らの学習に生かす。

であるとする。

※各教科ごとの特性を生かした「学び合い活動」も昨年度作成。（今年度、見直し）

本校生徒の実態は、

＊学習に対して真剣に取り組もうとする生徒が多いが、生活習慣や学習習慣・学習規律がしっかり確立されていない生徒もおり、その改善を図る必要がある。また、上位群と下位群との差異が大きく、個に応じたきめ細かな指導から下位群生徒の引き上げを図る必要がある。

※基礎的・基本的な学習内容の定着＝「学ぶ楽しさ」の(1)

＊知識・理解に関する能力は高いものがあるが、思考力や表現力を要する課題に対して、やや苦手意識を持つ生徒が多い。

※思考力・表現力を高めること＝「学ぶ楽しさ」の(2)

＊明るく素直で、何事にも一生懸命取り組むことができるが、主体的な活動(自ら課題を見つけ、解決のための活動を行う。また、わかったことをさらに深めていく・高めていく活動)という点では、物足りなさを感じられる。

※「学ぶ楽しさ」の(3)

＊標準学力検査の推移を見ると、全体としては横ばい傾向に、または、やや下降傾向にあり、基礎基本の定着を図る授業の工夫や教材の開発を図り、『確かな学力』を身に付けさせる必要がある。

本年度も、計画訪問の一人一授業の他に、もう1時間「学び合いの活動」を取り入れた授業を公開し、「学ぶ楽しさ」を実感できる生徒をより多く育成し、学力の向上を図っていきたい。

(1)研修のねらい

- *教師一人一人が、生徒の実態把握に努め、「学ぶ楽しさ」を実感させるために生活習慣や学習習慣・学習規律の確立を図ると共に、わかる授業・生徒のやる気を引き出す授業の改善・実践に努力する。
- *生徒の表現活動(言語活動を含む)や研究発表など、それぞれの教科の特性を生かした特色ある活動を取り入れ、個々の生徒の考えを引き出し、その考えを伝えあい、互いを高めあわせる授業展開を工夫する。
- *学習課題・学習内容を理解し、解決のための糸口を理解している生徒が、理解が不十分な生徒に対して教え合うことで、集団全体の学力向上を図る。

(2)具体的な手立て

①生徒の実態把握(アンケート等の実施) → 各教科での重点テーマの決定

各学年・各教科における生徒の実態を把握し、重点テーマを決定するとともに、今年一年を通して課題解決に向け、どのような場面でどのような手立てを講じるか、その具体的な研究内容や計画を明らかにする。

②授業プランの作成 → 一人一人の授業実践

日頃の授業を公開し、教師同士で学び合い、情報交換する。年間指導計画をもとに計画的に授業実践を行い、できるだけ多くの職員が参観できるようにする。(5月 日()まで に、何月に、どの単元で公開授業を行うか、各自が申告する → 公開授業の日程調整)。全職員が授業公開を行う。

※『授業公開月間』は設けない。各教科部会で、計画的に授業公開を進める。

同じ教科では、授業を変更しても、必ず参観する。

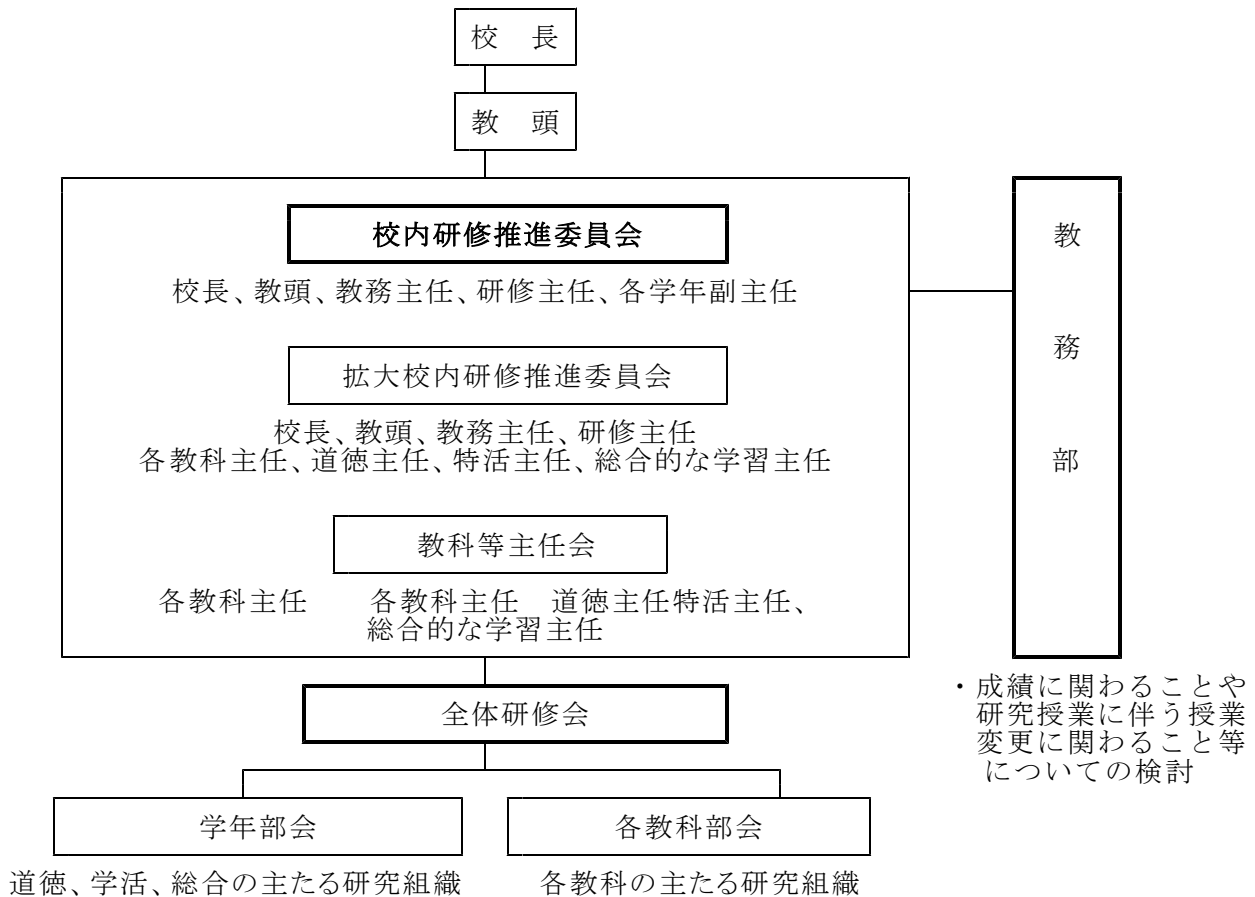
空き時間に「授業公開」している場合は、10分間でも必ず参観する。

担当している学年で「授業公開」している場合は、そのフロアで授業をしている時、10分程度の課題を与え、その公開授業を参観するようにする。

③授業研究会・実践報告

公開授業後は、各教科部会・学年部会で研究会を開き、情報交換を行うと共に、授業実践の様子は、「校内研修だより」として北中ホームページに掲載する。

3 . 研究の組織



4 . 研修の内容と日程

(1) 研修の内容

- ①全員が最低 1 回は授業公開し、授業後は教科部会を中心に授業検討会を行い、指導方法の向上、教育課程の編成に役立てる。
- ②公開授業後は、可能な限り研究協議を行う。
- ③新学習指導要領に関する研修
夏休み中に研修会を実施し、新指導要領に関する理解を深めると共に、それに対応した年間計画の見直し、改訂を行う。
- ④「道徳」「学活」「総合的な学習の時間」の 3 年間の系統性を明確にした構想案の作成
- ⑤一般研修の充実(生徒指導、教育相談、他校の研修発表への参加)

(2) 研修の主な予定

| | | | |
|-----|--------------------------------|------|------------------|
| 4 月 | 研修の方針説明 | 9 月 | 授業実践 |
| 5 月 | 教科の重点目標の検討 授業公開プランの作成 | 10 月 | 授業実践 |
| 6 月 | 計画訪問 | 11 月 | 授業実践 |
| 7 月 | 授業実践 | 12 月 | 授業実践 |
| 8 月 | 校内研修全体会 (教科部会・学年部会・教育相談部より) | 1 月 | 校内研修のまとめ・教育課程の編成 |
| | | 2 月 | 来年度校内研修の方向性について |
| | | 3 月 | 来年度校内研修についての提言 |

5 研究の計画と内容

| 月 | 事項 | 主な内容 | 備考 |
|----|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| | | 教科部会研修 | |
| 4 | ・研修推進委員会 ・全体研修 | * 教科ごとの研究構想・指導構想の検討、年間計画と活動内容の検討 * 研修主題、副主題、研修内容、研修組織、研修計画などの検討と決定 | ・年間を通して各教科年間指導計画、評価規準、評価の方法の見直しをしていく |
| 5 | ・研修推進委員会 ・全体研修 ・教科部会研修 (全体研修) | 年度始訪問 * 各教科の基本方針の設定、研究の方向性の検討と決定 * 一人一授業のための授業プラン提出(年間計画による授業期日の確認) * 計画訪問に向けての指導案検討(学年部会・教科部会) | ・教科研修構想提出 ・各教科の研究内容、授業の実践計画の作成5月末まで |
| 6 | ・研修推進委員会 ・計画訪問 ・授業実践 | 計画訪問 * 授業を通しての研究の実践 * 効果的な指導方法の検討 * 計画訪問を受けての今後の研修の確認と研修計画、研修内容の検討、見直しと補充 | * 計画訪問に向けての準備と計画訪問後の反省・検討・指導を受けて研究を深めていく ・全体研修に関わる内容は、主に職員会議や夏休み中に行う |
| 7 | ・研修推進委員会 | * 夏休みの研修の計画・内容の検討 | ・研修の中間報告の準備 |
| 8 | ・全体研修 ・教科部会 | * 授業実践についての研修 * 1学期に実施した授業改善への問題点や今後の課題についての協議 * 道徳・学活・総合的な学習の構想案作成 | ・各教科による1学期の取り組みと今後の計画についての中間報告 |
| 9 | ・研修推進委員会 ・教科部会研修 (全体研修) | * 授業を通しての研究の実践 | |
| 10 | ・研修推進委員会 ・授業公開 | * 効果的な指導方法の検討 | ・計画訪問を受けての反省を生かし、授業公開を展開する |
| 11 | ・研修推進委員会 ・授業実践 | * 教科の評価活動の検討と実践 * 効果的な指導のための資料蓄積 * 授業を通しての研究の実践 | ・他の教科の授業実践を参観することにより、各教科の研修に生かしていく |
| 12 | ・研修推進委員会 ・教科部会研修 (全体研修) | * 各部会の反省とまとめについての検討 * 研究紀要の執筆分担 | ・紀要形式、記述の仕方の検討、冬休みまでに教科部会に指示 |
| 1 | ・研修推進委員会 (全体研修) | * 研修のまとめについての確認、研究紀要執筆 | ・紀要原稿提出 |
| 2 | ・研修推進委員会 (全体研修) | * 研修のまとめ * 紀要印刷 | ・平成23年度評価規準表、年間指導計画提出 |
| 3 | ・研修推進委員会 ・各研修部会 ・全体研修 | * 研修のまとめ 今後の課題と次年度の課題の検討 | ・来年度へ向けてその方向性を準備会で提案 |